

「さあ、新年度へ」

教頭 保坂 泰司

本日で、平成28年度の教育課程を無事に終了することができました。これもひとえに地域・保護者の皆様による日頃の本校に対するご理解ご協力の積み重ねがあつてのことと感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、本日の修了式では、どの子もしっかりした態度で話を聞くことができました。その姿は、4月の頃と比べて全く違うとはっきり認識できるものでした。また、教室では、担任から通知表を受け取り、今学期の自分の成長の結果に喜んだり悔しがったりしていました。ぜひ、できるようになったところはさらに伸ばし、できなかったところはしっかりやり直して、新年度を迎えてほしいです。

さて、新年度を迎えるに当たり、私が日頃から心に思っていることを書かせていただきたいと思います。それは、子どもたちに、自分のため、または友だちや周りの人を喜ばせるために何か一つを決め、

それを一年間という長いスパンでやり続けるという決意をしてほしいということです。例えば、授業のノートを丁寧に書き写したり、防犯ボランティアさんに今まで以上に大きな声と感謝の気持ちを込めて挨拶したりすることです。なぜ、唐突にこのようなことを申し上げるかということ、数年前に読んだ本の中で左記にある永平寺第78世貫首の宮崎奕保(みやざき えきほ)さんの言葉を見つけ、それ以来、感銘を受けて私の心の中にあり続けているからです。誰でも思い立って、それを実行することはできます。問題は、継続して行い続けることができるかです。やはり、人間ですから飽きてしまったり、楽をしてしまう時が来るかもしれませんが、そこを堪えて継続し続ければ必ず自分のためになり、その結果自分の成長に繋がるものだと私は考えます。そして、一年間が経過したらさらに新しいことを継続して行う。この繰り返しをしていけば、木の年輪のごとくできることが増え、自分に自信がもてるようになり、大きく成長することができるかと確信しています。

学ぶということは、
真似をするというところから出ている。
一日真似をしたら一日の真似や、
それで済んでしまったら。
二日真似して、それであと真似をせよなら、
それは二日の真似。
ところが一生真似しておいたら、
真似がホンマもんや。
だから、真似が真似になってしまわんようにすること、
それが大事や。
そしてそれは、口で言うより実行や。

さて、明日からは春休みになります。今までの長期休業日と同様、「あおぎりっ子の約束」を守って安全に、そして健康管理をしっかりしながら楽しく過ごしてください。

最後になりますが、地域・家庭の皆様、新年度も本校の子どもたちのすこやかな成長のために、登下校や学校行事等で引き続きご協力をよろしく申し上げます。